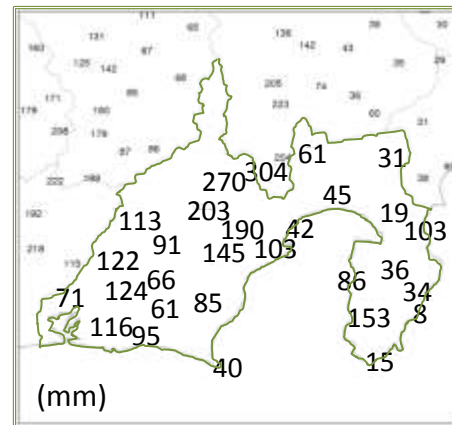
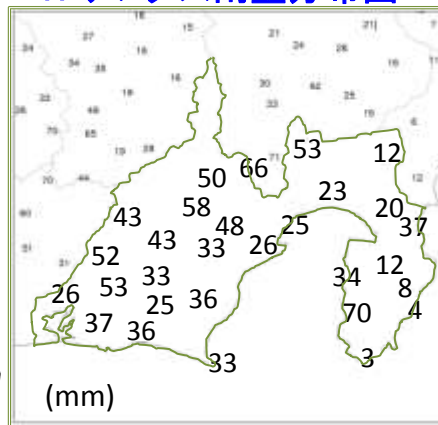


1. 気象経過

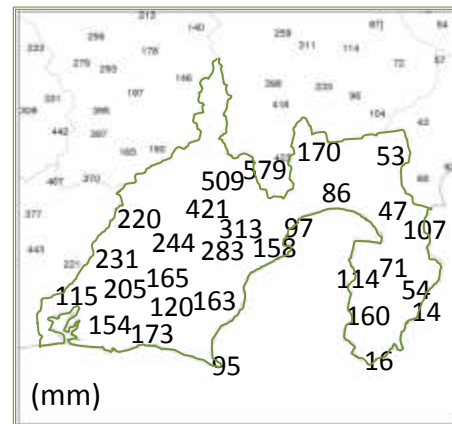
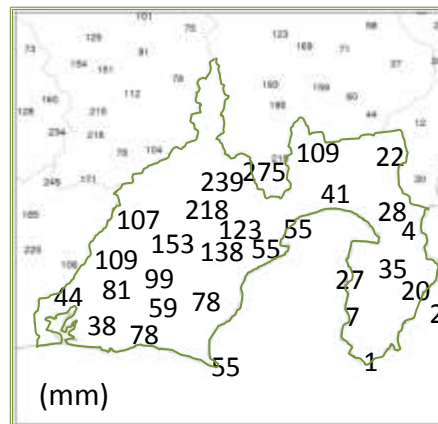
本州付近には、7日頃より前線が停滞しており、11日から12日にかけては、沖縄付近にあった台風第14号の東側を回る暖かく湿った風により、前線の活動が活発となった。これにより愛知県、三重県、岐阜県では記録的な大雨となり、名古屋では、11日の日雨量が平年の9月の月雨量の2倍となる428mm、三重県のアメダス宮川では8日～17日の期間降水量が1090mmを観測した（通称東海豪雨）。県内は、愛知県に大雨をもたらせた、線状構造をした強雨域が東進し、断続的に激しい雨となり、**アメダス松崎では、11日5時までの1時間に観測史上3位（観測当時）となる70mmの非常に激しい雨を観測した。**中部山地や西部では総雨量が多い大雨となった。

4. アメダス雨量分布図



アメダス1時間雨量(正時毎) 9月11日～12日における最大値

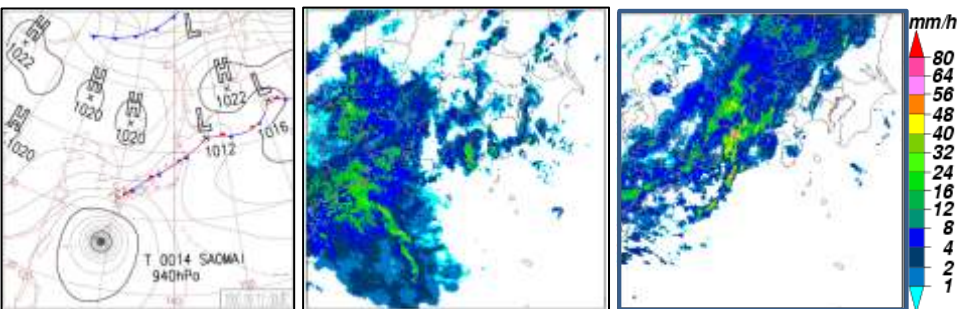
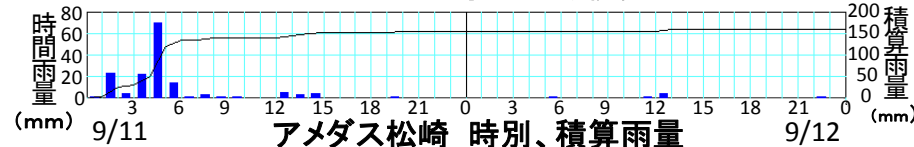
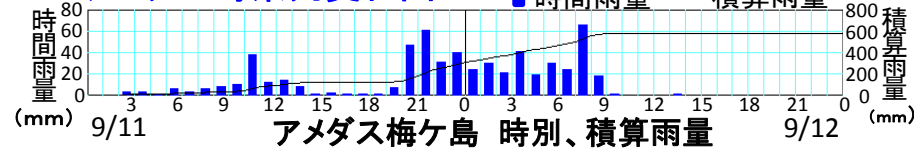
アメダス日雨量 9月11日



アメダス日雨量 9月12日

アメダス3日間雨量 9月10日～12日

5. アメダス時系列変化図



2000年9月12日9時 地上天気図

2000年9月11日 4時0分気象レーダー

2000年9月12日 7時10分レーダー

2. 大雨の原因、特徴

南東風の湿った風により、愛知県では線状の強雨帯が発生しやすい場となっていた。台風の西進に伴い、風が南東風から南風に変化し、線状構造を維持したまま、愛知県から雨雲が東進し、非常に激しい雨となった。また、強い南風により、南北の線状分布の積乱雲が局地的に発生し、このような場では、東海西部で降らせた要因が県内にも影響してくるかの見極めが着目点となる。浜松(防衛省)高度1500m付近では、10日21時には南南東の風6m/sであったが、11日9時には南の風16m/sを観測しており、東海西部で大雨を降らせた暖かく湿った風が県内に入ってきたことを示している。

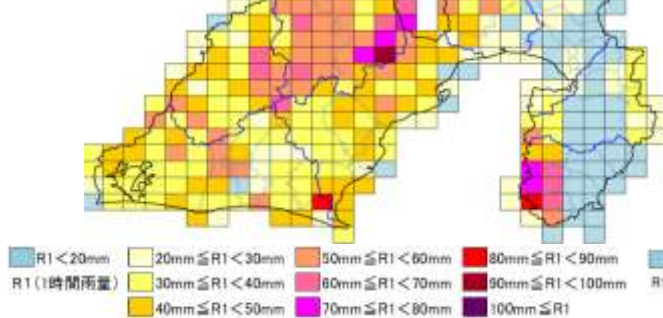
3. 被害概要

	床上(床)	床下(床)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部損壊(棟)	死傷(人)	重傷(人)	軽傷(人)	避難(人)	道路(カ)	橋(カ)	堤防(カ)	河川(カ)	砂防(カ)	鉄道(カ)
全県	1	33	0	0	0	1	0	0	13	38	0	82	0	0	0
中部	0	5	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
西部	1	26	0	0	0	1	0	0	-	-	-	-	-	-	-
東部	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
伊豆	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-

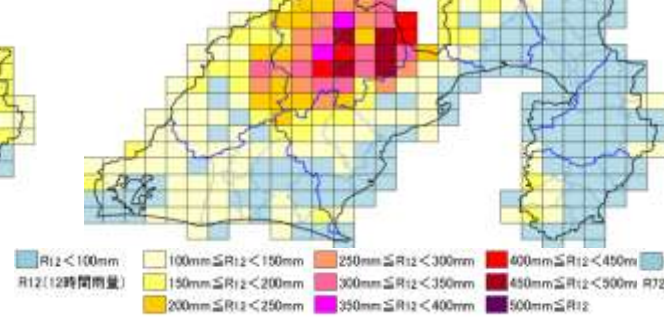
被害数は、静岡県 平成12年における災害の状況による

6. 解析雨量分布図

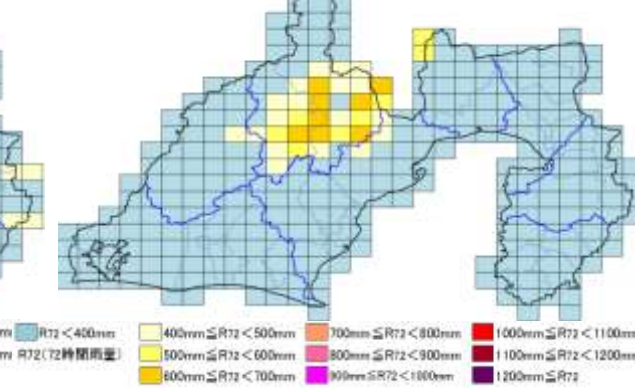
解析雨量(1時間雨量)
2000/9/11~9/12
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



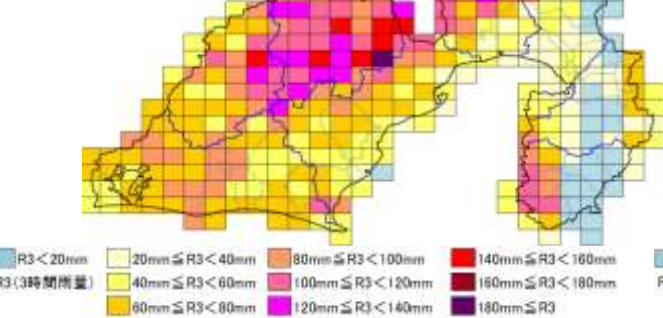
解析雨量(12時間雨量)
2000/9/11~9/12
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



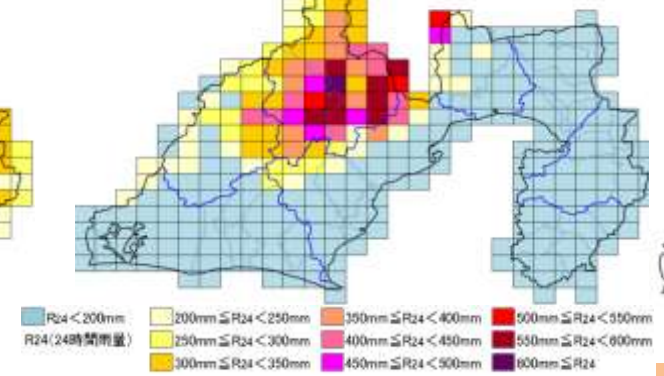
解析雨量(3日間雨量)
2000/9/10~9/12



解析雨量(3時間雨量)
2000/9/11~9/12
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



解析雨量(24時間雨量)
2000/9/11~9/12

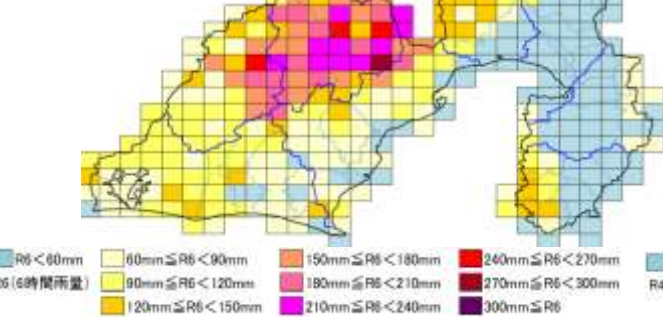


7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)

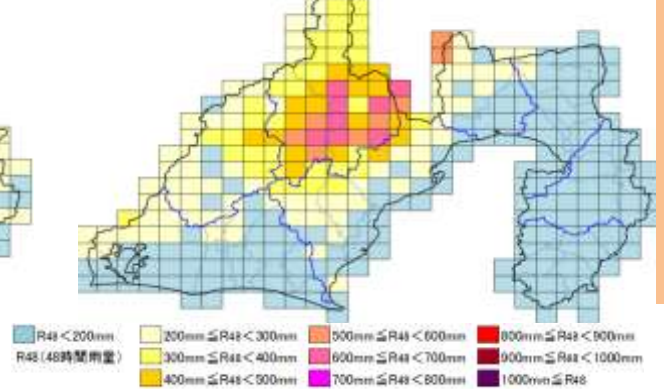


被害数は、静岡県 平成12年における災害の状況による

解析雨量(6時間雨量)
2000/9/11~9/12
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
2000/9/11~9/12



解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

1時間雨量は、南北の線状構造をした強雨域により、広い範囲で激しい雨となり一部で猛烈な雨となった。しかし、1時間雨量と3時間雨量は、ほぼ同値で、強雨は短時間で終わっていることが分かる。このため、浸水害も台風規模にならなかったと考えられる。